

## 小谷部・森川両君の手紙 (二)

望月達夫

○昭和十三年五月一日付 大阪市東区備後町

三丁目十九洲崎方より(封書)

其後御健在の事と存じます、会社員生活案

外案だと思ひませんか、尤も小生の方は今日迄実習で、愈々五月二日から実務を担当する様になるんで、今の処では未だ未だ何とも言へませんがね、所で森川、船本は本当に可愛

さうですね、貴兄からの御報告と同時に、両君へ見舞状を出して置きました、まあ斯うな

つては生命のある事丈で満足すべきでせうが、之からの部員も惨めなアクシデントを起さぬ様自粛自戒すべきですね、凄いの所をねらひ乍

ら、無事で目的を貫徹する所に、アルビニズムの安全性、確実性があると思ふのですが、客観的な批判を十分行はず、猜突する事は

兎角あり勝な事丈に、危険率も多い訳です、これからの部員が萎縮しないで、伸び伸びと正しい男らしい方向に進む事を望んで止まぬ次第。

扱申し遅れましたが針葉樹会報御送り下され有難う、学生時代は左程でもありませんが、一度学校を去るととても懐しい存在ですね、

貴兄の催促を俟つ迄もなく、何かものしやうと思つて居りましたが、雑事に追はれたり、或ひは暇があつても落付かなかつたりして何も書けませんでした、先般関西支部の家族

大会に参加致しましたから、一寸報告を書いて同封しました、之は無記名で願います、又松

木氏或ひは他の先輩が別に報告を書いた様でしたら、何卒小生の分は没にして下さる様。当方会員も皆元気で、小生も当分大阪勤務らしいので、冬のスキー行等々楽しみです、昨

今では休日毎に六甲へ五、六里位のハイキングを励行して英気を養つて居ります、week-endは実務上の勉強や練習等で、山の本さへ

落付いて読めませんが、土曜日曜には勉めて山に接し度いと思つて居ります、その内小生も兵隊検査で帰京しますから、何とか打合せ

て拝眉の機会を得、色々在京の模様等承り度いと存じます、では皆様に宜しく、森川、船本の事宜数頼む。

(註) 文中関西家族大会の報告というのは、針葉樹会報第七十四号所収のものが多分それであろう。

○昭和十三年六月一日付 大阪市東区備後町 三丁目十九洲崎方より(ハガキ)

先般は御便り有難う、又会報七十四号落手、原稿不足との事、何か書き度いと思つて居ますが、最近一寸人事の移動があり、執務后間

もない小生に可成り過重の責任を背負せられて了ひ、毎日仕事に追はれて全く暇なしですから当分御勤弁下さい、実際最近の様な時勢

では小生の係(金物全般の購買)は多忙且困難です、毎日相場を調べ、種々術策を使つて本場の大阪商人と交渉するんですから、大学の教育より経験です、所で森川達経過良好との事何よりです、毎日忙しくガサガサしてる

と、山が恋しいですね、写真等出して見て居ると遠い昔の想出の様に感じて来る昨今、些か淋しい感じです、では今日これで

○昭和十三年六月十六日付 兵庫県阪急沿線

西宮北口甲風園二号地菊屋アバートより（ハガキ）

前略

梅雨気味の昨今如何、前年迄は今頃ともなれば、物さびたあの懐しい部屋に集つて、夏山の準備にいそしんだものだったが。

先週の日曜、珍しくも鷹野が訪ねて来て、学生時代に立遺つて大いに談話し例の如く遊んだが、実に愉快だった、目下小生口癖の様だが仕事がいそがしくて、原稿も思ふだけでよ

う書けぬ、昨（十五日）関西針葉樹会例会を開いた、会するもの五十嵐、森、中島、岡田、黒田、小生の六人、野村ビル如水会支部で晩

餐を共にし、珍らしくも山の追憶、スキーの話に身が入つた次第、右宜しく会報記載乞ふ

（住所表記ノ如ク変更ス）

○昭和十三年八月十一日付 西宮北口甲風園

二号地菊屋アバートより（ハガキ）

前略 六日付御書拝誦しましたが、昨今

金物関係の統制強化と共に色々手続上煩雜な事が多く、今の処到底休めません、休暇があり乍ら手離せぬ状態ですから何卒悪しからず、二十日過でも恐らく駄目だろうと思はれますが、今からはどうとも予断は出来ません、入

営が早目になる由、残念乍ら除障迄の数年間、あらゆる私的な生活から遠ざからざるを得ない訳です、では右御返事まで

○昭和十三年十月十九日付 大阪市東区備後

町三丁目十九洲崎方より（ハガキ）

めつきり秋めくにつれ穂高や北岳の新雪が思はれます、先日は会報有難う、例の如く筆不精で失敬しました、貴君随分山へ行かれたらしいが、東京は好いですね、小生はとうとう当然とらなければ損する夏休みも取れず、

定例休暇も未だ一日もとって居ません、その内その内と思ふばかりで、アバートは止めて又兄貴の所へ越しました、では又

○昭和十四年一月元旦付 信濃四ッ谷白馬館

にて（ハガキ）

行大阪発、一日四谷一黒菱、二日から五日迄滞在して附近を滑り廻る積りです、久し振りに雪の北アルプスに接し感激して居ります、たゞし体もオフィス務めで可成りレベル低下してますから、昔日の頑張りはどうですか、

○昭和十四年八月七日付 上高地にて（ハガキ）

今日上高地へ来ました、大天幕にて暑い内滞する予定です、今度は携帯寝台等使用して頗る工合宜しいです、一度休暇とつて遊びに来ませんか、大阪に居る時は堪らなく暑かったのに、まるで中秋の気候です、岳川奥の雪も平年より大分多く残つて居ります、何れ

上高地便り等ものしてお送りませう、では炎暑の砌御自愛祈上ます、草々

○昭和十五年八月二十七日付 発喃天狗ノ湯

にて（白滝幾之輔筆の志賀高原坊平山のエ

にて（ハガキ）

御無沙汰致しました、やつと繁瑣な会社から解放されて中島、黒田両氏と共に卅一日夜

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

二十四日から住友山岳会の連中と志賀高原

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

へ来て居ます、颱風の影響か毎日霧と雨です

が、寒い位の高原の風情と温泉情緒は格別で、コースは上林より横湯川を溯行し、地獄

谷を経て発哺温泉へ出た処、雨々で伸びて了

同第九十三号所収の志賀高原の旅とである様ですが——これは昨日岩崎君が下飯、夕食を共にした際話した所から察したのです——

ひました、今日は熊ノ湯迄の楽な旅です、委

○昭和十五年十月二十日付 兵庫県武庫郡芦

小生は絶対反対です、アルピニズム即危険と目され易いのは、その発展に着実な段階を踏

細は帰阪後、前の奥又白谷行と一緒に御報告

先般は御見舞有難う、健康は相変わらず来

まず、無反省な飛躍をするからに外ならぬと思ふのです、関西にも近く西日本山岳聯盟が

しませう、では皆さんによろしく、さよなら

○昭和十五年九月二十六日付 兵庫県武庫郡

結成されるが、この点注目してる訳です、山の段付問題等東京は恐らく黙殺かと思つ

芦屋月見ヶ丘山楽荘より(封書)

視、山の事ですが新体制の所謂「実践の裡

に其の真髓を見出す」底のものならば、目下

随分御無沙汰しましたがお変わりありません

内にて燃えて居る日本山岳会の方向も結構です

はあきれましたね、針葉樹会の連中よく黙つて居られると感心します、クマ、ベン、増山

か、秋涼と共に雪に想ひ……と言ふ処ですか、

が、機構の為の機構、空理空論に情するもの

ならび大反対な事勿論です、進歩しつゝある

貴兄も二児を抱えて……で仲々大変でせう、

登山の実践に対して、録々の努力もせず大き

な顔をして居る老大家達は、何かの形で裏側

扱、山の記録出さう出さうと思ひつゝ公私共

々ゴタゴタ続きで、つい延引して了りました

へ引退せしめる必要があるとは思ひませんが、

が、茲許回封しましたから不悉御査収の上、

例へばある中央の統卒機関下の一分科会乃至

は顧問位で片付ける必要があります。

この夏は山は如何でした？ 当方も船本が

来てどうやら岩のパーティには事かきません

次に最近の遭難問題や新体制の組織組替運

が、矢張り普通通りの連中が揃はぬと淋しいで

動に便乗して、所謂アルピニズムなる指導概

念が大きな緊張と辛勞を伴ふ為か、之を敬遠

すね。せいぜい御健闘の程祈居ります、では

右取急ぎ要件のみ、東京の皆さんによろしく

してイージーゴイングを大衆的な行き方を

居ります、では右不取敢御礼旁々卑見具陳ま

(註) 右回封の山の記録というのは、針葉

理窟すけようと言ふ、卑怯な妥協的言論が、

樹会報第九十二号所収の奥又白、前穂高と、

商大山岳部内や先聲間にも若干見受けられる

如々

尚小生十二月三十一日夜から一月十日位迄

ます)

は休めます、久し振りに会の連中と何処かへ登りたいと思つて居りますが、如何です、スキーの列車持込禁止の件もあり早々話し合ひ度いと思ひます、

○昭和十五年十一月十四日付 兵庫県武庫郡

芦屋月見ヶ丘山楽荘より(ハガキ)

前略 鷹野の戦死には全く驚きました、あいつ許りは元気で帰へれる事と思つて居たのに惜しい事です、過去、生活を借にした思出に胸のふさがる想ひです、遺稿集なり追悼号なり、大いに望を慰めてやり度いと思つて居る次第です。

次に先般お話し伺つた関東学生山岳聯盟、

近々格好が出来る由ですが、趣旨概要等関西の連中知り度がつて居りますから、折返し御急報願上ます(この十七日に関西学聯の集りがあつて、そこで一寸参考迄に披瀝したい相です)

匆々

○昭和十五年十一月二十三日付 武庫荘より

(ハガキ)

住所変更御通知(山岳会等へも宜敷頼み

前略 今般小生左記へ転居致シマシタ今後共宜敷願上マス

記

阪急沿線西宮北口武庫荘内

小谷部 全助

(電、西宮二六九三番)

先日は早速学生懇談会の書類御送附に予り

有難う、大阪も可成り組織や言論は盛んですが、実践の貧困が淋しいですね、鷹野の写真等眺めて何時も思出しては残念に思つて居る次第です。

○昭和十六年四月二十九日 品川区大井元芝

町八四九より(ハガキ)

拜復 御手紙拜誦、病氣は例によつて何と

もない、恐らく昔の古傷が一時再燃して他覚的に変調を来したものと思ひます、暫く海岸へ保養に行つてたが、どうにも退屈なので又舞戻つて居ります、例の写真は引越后でよく整理してないし、最近新人の傑作に伍しては先づ発表する価値なしと思つて居ります、鷹野君の話等したいが、御都合いたら五月一日の帰りに小生宅へ来ませんか、

次の森川君の手紙は、十三年春、奥又白奥

壁登攀でひどい凍傷をうけ、築地の林病院に入院、右足指全部切断し、六月二十二日よりやく退院した直後のもので、なかで『針葉樹』十号作成の点にもふれている。十号は森川の当初の計画よりおくれ、翌十四年九月に発行された。

○昭和十三年六月二十八日付 沖奈川泉湯河

原温泉上野屋旅館より(封書)

拜啓 先日は電話で失礼しました、のりちゃん(註)私の長男のこと)の病氣は如何ですか、東京に居る中、一度会ひたかつたのですが、病院長の許しが出たし、おやじが一掃

に行こうと言ふので一昨日湯河原へやつて来ました。

陰鬱な雨も昨日今日は珍しく晴れ上つて、緑滴る伊豆の山々が、強い初夏の太陽にきらきら光つて居ります、久し振りに見る山は小さいながら感慨深いものがあります、俺はもう当分の頂へさへも立つ事が出来ないと思ふと、矢もたてもたまりません。

傷の方は増々好調で昨日など六七丁も歩き

ました、勿論両足で以てです。御安心下さい。大体、大綱を決定しましたが、何しろ始めて  
此の温泉の湯は体に合ふせいか、小生には大の連中はかりの事とて、貴兄始め先輩諸兄の  
変きく様です、気分も悪くないので十日程滞在する積りで居ます、おやじは二三日中に帰  
るので淋しくなります、若しお暇でしたら遊びにお出下さい。

それから先日小生宅へ、佐々木、岩崎、大塚、日江井等が集った折、丁度よいので相談した結果、八月から九月へかけて針葉樹十号を発行する事にきめました。時節柄如何かとも思はれますが、山岳部として今一区切り付けて置いた方がよいと思ひますので、内容を充分吟味して圧縮し、小粒ながらびりっとしたものを作る考へです。内容形式に關しても

御力無しには出来ない相談です、詳細は帰京の上お話しします、宜しくお願ひ致します。取敢えず広告の件ですが、之は夏休中に相当働きかけた方がよいと思ひますので、此の事

に關しては日江井に一任して置きました、小生からも一応要領は話しましたが、具体的の点につき面倒でも御教示願ひます、他の部員にも一応心得などお伝へ下さる様。本の内容説明としては、頁數、百頁内外、写真十二三

葉、九月下旬發刊(十月初旬になるかとも思はれます)發行責任者は小生です。本文としては奥又白が一段組で、二段組のものとして

六月二十八日 望月 兄 敬具  
森川 生  
机下

(一九八一・五月記)